

# 感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2024年第29週 (7月15～21日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

## ●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2024年第1週から)

疾患名	報告数	累積
<b>[1類]</b>		
(報告なし)		
<b>[2類]</b>		
結核	199	8429
<b>[3類]</b>		
コレラ		2
細菌性赤痢	2	26
腸管出血性大腸菌感染症	101	1370
腸チフス		22
パラチフス		4
<b>[4類]</b>		
E型肝炎	9	305
A型肝炎	2	89
エキノкокクス症		6
エムボックス <sup>1)</sup>	1	15
オウム病		3
回帰熱		7
Q熱		6
コクシジオイデス症		1
ジカウイルス感染症		1
重症熱性血小板減少症候群		84
ダニ媒介脳炎		2
チクングニア熱		3
つつが虫病		102
デング熱		104
日本紅斑熱	6	189
日本脳炎		1
ブルセラ症		3
マラリア	3	27
ライム病	1	16
類鼻疽	1	1
レジオネラ症	51	1137
レプトスピラ症		3
<b>[5類]</b>		
アメーバ赤痢	5	300
ウイルス性肝炎 <sup>2)</sup>	5	125
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 <sup>3)</sup>	41	1089
急性弛緩性麻痺 <sup>4)</sup>	2	22
急性脳炎 <sup>5)</sup>	9	305
クリプトスポリジウム症	1	14
クロイツフェルト・ヤコブ病	3	89
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	22	1249
後天性免疫不全症候群	9	554
ジアルジア症	1	21
侵襲性インフルエンザ菌感染症	9	384
侵襲性髄膜炎菌感染症		35
侵襲性肺炎球菌感染症	18	1552
水痘 (入院例に限る)	5	260
梅毒	168	7719
播種性クリプトкокクス症	1	120
破傷風	2	47
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	74
百日咳	53	744
風しん		4
麻疹	2	26
薬剤耐性アシネトバクター感染症		3

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

## ●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ <sup>6)</sup>	1843	0.37
新型コロナウイルス感染症	67334	13.62
RSウイルス感染症	5274	1.68
咽頭結膜熱	1576	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7499	2.39
感染性胃腸炎	9085	2.89
水痘	526	0.17
手足口病	36797	11.72
伝染性紅斑	388	0.12
突発性発しん	809	0.26
ヘルパンギーナ	6134	1.95
流行性耳下腺炎	134	0.04
急性出血性結膜炎	16	0.02
流行性角結膜炎	325	0.46
細菌性髄膜炎 <sup>7)</sup>	14	0.03
無菌性髄膜炎	15	0.03
マイコプラズマ肺炎	339	0.70
クラミジア肺炎 <sup>8)</sup>	1	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) <sup>9)</sup>	5	0.01
インフルエンザ (入院患者)	51	—
新型コロナウイルス感染症 (入院患者)	3827	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

## ●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	▲	沖縄、愛媛、山口
新型コロナウイルス感染症	▲	佐賀、宮崎、鹿児島
RSウイルス感染症	▼	鹿児島、愛媛、福岡
咽頭結膜熱	▼	岩手、北海道、山形
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▼	福岡、鳥取、宮崎
感染性胃腸炎	▼	大分、福井、群馬
手足口病	▼	三重、富山、静岡
伝染性紅斑	▲	茨城、東京、青森
ヘルパンギーナ	▼	静岡、埼玉、佐賀
流行性耳下腺炎	▼	香川、宮城、兵庫
マイコプラズマ肺炎	▲	大阪、佐賀、福井

## ◆エムボックス：コンゴ民主共和国

5月26日現在、コンゴ民主共和国では、384例の死亡者を含む合計7851例のエムボックス患者が報告されている。治療キットの不十分な入手状況やワクチンの不足などからWHOは、コンゴ民主共和国におけるエムボックスのリスクは依然として高いとしている。